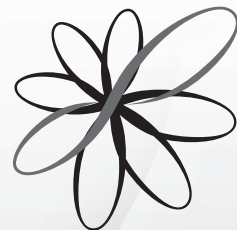


錦上添花 ~助け合いで生まれる新たな彩り~



~助け合いで生まれる新たな彩り~

JC NEWS

2021.vol.2

<発行> 一般社団法人 宇部青年会議所 HP <https://ubejc.com/> E-mail mail@ubejc.com
<事務局> 宇部市相生町 8-1 宇部興産ビル 6F TEL (0836)33-2838 FAX (0836)33-7735

一般社団法人宇部青年会議所 第66代理事長を務めさせていただきました藤井茉莉と申します。皆様方におかれましては、平素より一般社団法人宇部青年会議所に対し、多大なるご支援と温かいご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年より続いております新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、皆様にご挨拶やお礼を申し上げる機会に巡り合えずにございました。この場をお借りいたしましたし、改めて2021年度の活動に対する激励やご心配のお言葉に対し、感謝の念をお伝えしたいと思っております。誠にありがとうございます。

本年度は、「錦上添花」助け合いで生まれる生まれる新たな彩り」という言葉をスローガンに掲げ、人と人が互いの持てる価値観を分かち合い、相互がより輝くことでステップアップすることを目標とし、活動に邁進してまいりました。昨年の9月頃から様々な準備を重ねる中で、1か月先の状況が読めず、活動の準備に意味を見出すことが困難な時期もございました。そのような中でも、会員が互いの立場から叱咤激励し合い、例年のような華やかさとはまた異なる、新しい手法を取り入れや創意工夫に溢れた事業を開催することが出来、宇部青年会議所として大きな一歩を踏み出したのではないかと感じております。

1月18日に開催予定であった新年懇親会につきましては、中止という苦渋の決断を下しましたが、その経験に基づき、緊急時の連絡体制構築の重要性を再認識し、以降の活動に大きな影響を及ぼしました。6月27日に



理事長挨拶

第66代理事長
藤井茉莉

開催いたしました教育開発事業「UBE CRAFT」ゲームで作ろう「UBE CITY」では、宇部市内の感染者急増を考慮した上で、オンラインでの事業開催に切り替え、デジタル技術の楽しさを、ゲームを通じて学んでいただきました。私たち自身もオンラインでの事業開催は初の試みであり、まだまだ改善の余地があることを痛感いたしました。そして何よりも、「みんなと一緒に何かをしたい」という子供たちの想いに対し、直接対面せずとも私たちに出来ることがあったのだと、認識を新たにす切欠となった事業です。そして、その経験を経て、8月から10月にかけて社会開発事業として、「コレミテUBE」という宇部市の魅力を再発見するためのホームページを期間限定ではありますが開設いたしました。私たちが住まう宇部市には、新旧問わず多くの魅力が眠っています。知ってもらうことは、地域の活性化の第一歩です。これまで見逃していた多くの魅力的な店舗を知り、Eコマース時代へと徐々に移行していきたいと願っております。

また、多くの方にご参加頂く予定でした「第47回JCヤングスポーツ大会」では、日頃の練習の成果を発揮する場が減っている多くの子どもたちに、存分に力を発揮してほしいという委員会の熱い想いのもと開催に向けて調整を致しましたが、サッカーなど一部の競技では断念せざるを得ない状況に見舞われました。コロナ禍で様々な機会が減ったのは大人だけではありません。成長過程にあり、一つひとつの経験が今後の核になっていく子どもたちにとって、この2年間の自粛は大きな影響を及ぼしています。耐えるということ、私たちが以上に学んでいる子供たちが、少しでも健やかに未来へと向き合えるよう、私たちは今後も事業の開催を通して場の提供に尽力する必要があるのだと、開催後の皆さんからの感想をお聞かせいただいた中で痛感することが出来た事業でもあります。

その他にも、指導力開発委員会が行う新入会員に向けての「勉強会」や「新入会員研修会」は、出席対象者や開催方法の変更など、可能な限りの対策を講じて開催いたしました。自主的に自分たちで調査をし、当日に仕上がった成果を目にし、今後の宇部青年会議所の活動で是非実行して欲しいというアイデアが数多く出てきており、対面で行う事業の有効性を再認識

することが出来る事業でした。

様々な面で困難なことに直面した年でしたが、喜ばしいことも経験できた年でもありました。山口県内の各地青年会議所13 LOMにて構成される山口ブロック協議会という組織がございます。その中で一定期間に開催された事業について相互に評価する報償審査会というがあり、この度、宇部青年会議所の教育開発事業「UBE CRAFT」ゲームで作ろうUBE CITY」が、「ニューノーマル部門」で栄えるあるグランプリを受賞することが出来ました。この受賞がきっかけとなり、次は事業部門での受賞を目指したい、などの声が上がるとなり、自分たちの活動に対して益々積極的に取り組める空気が醸成されているのを感じており、2022年度以降に開催される宇部青年会議所の事業に対しての期待も高まっております。

また、これまでにはなかった13 LOM内の会員同士の交流を目的としたゴルフコンペも開催され、例年とは違う形での相互理解が出来たのではないかと感じております。私自身、それほど交流というものを意識して活動していたつもりはありませんでしたが、このような機会を改めて設けることで、日々の活動や運動がどれほど大きな役割を担っていたのか再認識する機会を頂きました。

2021年度は、全員で集まり、共に活動することが非常に困難な年でした。しかしながら、その状況にも心折れることなく、各々の役割の中で見聞きし、悩み考え、会員一人ひとりが大きく力を蓄えることが出来た年でもあります。ここで蓄えた力が、2022年以降に芽吹き、大輪の花となって明るい豊かな社会の実現に寄与することができると確信しております。

結びとなりますが、2022年度は二木隆行君を理事長として、私たちのまちの未来を創るべく活動に邁進する一般社団法人宇部青年会議所となりますことを信じております。これまでと変わらぬご理解協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます、私のお礼のご挨拶とさせていただきます。

一年間、誠にありがとうございました。

2021年度 卒会者挨拶

2021
卒会者
青山 祥



このJCニュースを書きながら、少しずつ卒会の実感が湧いてきました。私は2015年7月に入会しまし

た。父がOBで、先輩や現役メンバーから強い勧誘を受けたことがきっかけです。入会にあたり、推薦人の櫻井君と藤井さんから入会抱負の提出や審査委員会があると聞き驚きました。また初例会日は第二子の出産予定日。欠席の可能性があると推薦人から三役に伝えて頂くと「初例会欠席は皆が心配するし、その後来づらくなるよ」と返事が。結局、出席できませんでした。何があっても欠席できない例会、国歌斉唱やJCソング斉唱、セレモニー、ラッキーボックスなど宗教みたい。時折静

粛な会場で聞こえる空調の奇妙な風の音が、更に憂鬱にしてくれました。入会早々後悔しました。後悔しませんが、会社の看板もあるので耐えようと決めました。それから6年半、色々なことが



入会2か月後2015

指導力開発委員会のLD道場で、居酒屋の青春のリーダーに。事業数日前に同期長男の兄島君から「婦木委員長がミノとせせりも食べたいから追加と言っている」と連絡があり、時間がなく無理と伝えるも対応。後に対応力を磨かせる為だったと聞き勘弁してくれと思いましたが、打合せや懇親会など、同期の仲間と過ごした時間は本当に楽しかったです！そして2016人間力向上委員会メイン事業のUBEレポリション。宇部市内全10校の高校生に、市民や市長の前で市制100周年を迎える5年後のまちを考えてプレゼンを行って頂き、3校を表彰しました。事前に各高校に3回訪問し、ブレインストーミングやKJ法を使った進め方、学校へ行こうの未成年の主張を例に想いが届くプレゼン方法の説明もしました。平日の昼間に沢山の時間を費やし大変でしたが、真剣な高校生やフォロワーする先生、表彰されず悔し涙を流す高校生を見て、最も心に残る事業となりました。そして初理事副委員長となった2018、初委員長となった2019で連続の総務渉外広報委員会に。年始の新年懇親会やその他沢山の任期職務を抱え、特に委員長だった2019は毎日JCでした。自分一人だと乗り越えることができなかったですが、委員会メンバーや同期の天野専務に助けて頂き、全ての職務を終えた後は感じたことのない達成感がありました。また2020は副理事長、2021は監事として立場の勉



強をしました。

その他にも書ききれない沢山の思い出があります。40歳までの限られた時間だから、単年度制だから毎年気持ちをリセットして自分なりに背伸びができた。心が折れそうな時もありましたが、簡単にできないから意味があったのだと思います。JCにいなれば考えることのない目的に対して、JCにいなれば出会うことのない個性豊かな素晴らしい仲間と苦楽を共にして活動を行い、JCにいたからこそ今の自分がある。私にとってこの6年半は一生忘れることのないかけがえない宝物です。JC活動をすることにより理解して見守ってくれた家族、仕事のカバーをしてくれた会社従業員、沢山の気づきや笑いをくれた先輩や現役メンバーに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました！

最後に現役メンバーへ。縁があつて自分が入ったJC。ここでしか学べないことや単年度制でその年にしか経験出来ないことが沢山あります。それを卒業するまで毎年積み重ねていくことで必ずプラスになると思いますが、壁に当たって辛い時もあると思います。自分を信じて隣の仲間と共に乗り越え、必ず卒会してください。みんな頑張れ！

JC 経歴

- 2015年 指導力開発委員会
- 2016年 人間力向上委員会 委員
(出向) 山口ブロック協議会 副会長セクレタリー
- 2017年 経営開発委員会 委員
- 2018年 総務渉外広報委員会 副委員長
- 2019年 総務渉外広報委員会 委員長
- 2020年 副理事長
- 2021年 監事

2021
卒会者

榎木 晋司



本年度卒会生の榎木でございます。2014年の8月に入会させていただきまして、もう7年が過ぎました。

2014年に会社を創設した次の月に審査委員会を受けました。いまでも改善されているかどうか自分ではわかりませんが、その当時は髪型も坊主でしたし、仕事も忙しくさせていただいておりましたし、「なんで俺がこんなことせんといけんのか」とアンチJICの筆頭だったのではないかと思います。ただ、やはり皆様がおっしゃる通り、住めば都。2014年の指導力開発委員会の居心地の良さに心を許すにはそれほど時間はかかりませんでした。2014年度指導力開発委員会の橋本委員長、秋村副委員長、山本リーダー、そして私のわがままを温かく見守ってくれたメンバーのみんなありがとうございました。そして2年目以降様々な委員会に配属させていただきまして。本当に「俺には向いてないな」と思う委員会、そして立場ばかり経験させていただいた気がします。とくに吉村理事長に仰せつかった会員拡大委員会の委員長の職。メンバーをまとめる事の難しさ、魅力を伝えることの難しさ、そして人の時間を頂くことの難しさを感じました。そして、この7年間で自分の入会年以外の指導力開発委員会に2回携わっています。2017年度の國弘委員長の下の副委員長、そし



2019年度の櫻井委員長の下の副委員長。2014年の指導力での出来が悪く、出直してこいということだったのでしょうか。ただ、青年会議所の事を何も知らない新入会者達にどうすれば青年会議所

をわかってもらえるだろうかなどを委員長と真剣に考えていた記憶があります。そして何よりその事を通じて自分自身の青年会議所に対する気持ちを高められていったのではないかと今となれば思えます。

青年会議所に入会しているんな方々と知り合えました。よく言われますが、ここに入らなければ知り合うことのなかったような人たちです。この7年間、様々なことがありました。ただ、青年会議所を辞めようと思ってたのは2014年、入会して間もない時だけです。皆様のおかげで卒会させていただけです。この7年間で得た様々な事を糧にこれからも頑張つて参ります。ありがとうございます。



JC 経歴

- 2014年 指導力開発委員会
- 2015年 総務渉外広報委員会 委員
(出向) 山口ブロック協議会 総務広報渉外委員会
- 2016年 人間力向上委員会 委員
- 2017年 指導力開発委員会 副委員長
- 2018年 会員拡大交流委員会 委員長
- 2019年 指導力開発委員会 副委員長
- 2020年 監事
- 2021年 教育開発委員会 副委員長

2021
卒会者

岸 仁徳



師走を迎え、本年もたくさんの感謝や反省をして一年を振り返る時期となりました。2016年に宇部青年会議所に

入会をして4年で卒会となり、いざ卒会を迎えるとなると非常に寂しく思いますが、卒会年に委員長の役を仰せつかり、JIC生活の集大成と言える様々な経験をさせていただきました。

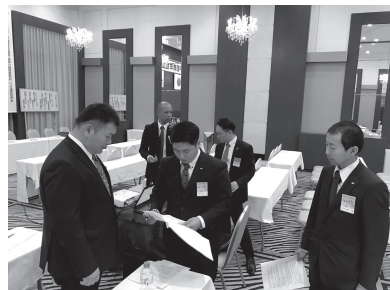
2016年の1月に入会して、最初に驚いたのは京都会議での「青年会議所」という団体の影響力や大きさです。京都の街のどこを見渡してもJIC一色に染まっており、このような大きな団体で限られた期間活動出来る事に改めて身が引き締まると同時に、この大きな団体に所属出来た事に誇らしさを持ったことを思い出します。2年目、3年目と様々な立場で色々な経験をさせていただき、卒会年になる2021年は社会開発委員会の委員長として委員会を率いる立場で1年過ごさせていただきました。委員会スローガンを「未来に繋ぐ」とした思いとしては、私自身



身が4年のJIC生活で学んだことを出来る限りこれから活躍するメンバーに伝え、時代の変化に合わせる何か新しい事を残し、繋げていきたいと

いう思いから、このスローガンにさせていただきます。昨年から継続したコロナ禍で、臨機応変に対応した事は完ぺきではなかったと思いますが、これまでの経験を活かした部分もありました。何よりも人に伝え人を動かす事の大変さを最も感じた一年になりました。

卒会を迎えるにあたり、これからも活躍される青年会議所のメンバーにお伝えしたい事として、人生最後の学校と言われている青年会議所の活動は、取組み方、意識の向け方一つで生涯かけがえのない財産となる経験を積むことが出来る素晴らしい団体だと思います。何事も失敗を恐れず、「できない言い訳を考えるのではなく、出来る方法を考えてみる」是非この考え方を持っていただいて、明るい豊かな社会づくりとご自身にとって大きな学びを経験していただければと思います。最後となりますが、4年間私を支えて下さった宇部青年会議所の皆様、そして青年会議所活動を通じて出会った多くの方々々に心より厚く御礼申し上げます。ただきます。



JC 経歴

- 2018年 指導力開発委員会
- 2019年 社会開発委員会 委員
(出向) 山口ブロック協議会 SDGs推進委員会
- 2020年 経営開発委員会 副委員長
- 2021年 社会開発委員会 委員長



倉田 真吉



先輩に誘われて、宇部青年会議所に入会させていただき、十数年間たたく私の事を学び、今までの私の生活の中では経験することがない貴重な経験を数多くさせていただいたと思っています。

指導力開発委員会では「言われたことをやればいい。」「JCってのは辞めたら意味がないから続ける。」とだけ委員長から言われ、「なんでこんな事を覚えるの?」と思いつながら、同期メンバーとJC宣言・JCIクリード・環境運動宣言文を覚えたり、大きな声で国歌やJCソングを歌ったりしたこと事は、今となれば良い思い出だと思います。

特に思い出深い事といえば、市内の小学生を集めて、アクトビレッジおので事業を行ったときのことです。私はその日、そうめん流しを担当していたのですが、第二子の出産予定日と重なっておりまして。まさか生まれる事はないだろうと、朝家を出て厚南あたりを車で走っていると、妻から電話があり、「陣痛が来たかも」と言われ、



直ぐに委員長に電話をかけて事情を報告すると、「担当副理事長もいるし、どうにかするから直ぐに帰れ」と言っていたいただき、アクトビレッジおのに着く事なく、家に帰った事を今でも強く覚えております。

また、2015年に私が新店を出店した事により、現場から離れることが困難になってしまい、退会するか休会するか悩んだ事もありました。しかし、指導力開発委員会の時に委員長から言われていた、「JCってのは辞めたら意味がないから続ける。」という言葉を思い出しながら続けることができました。結果的には休会することが多くなりましたが、休会が明けてからも委員会や例会、事業に参加できないことが多く、理事長をはじめ、委員長や副委員長、メンバーの皆様にも多大なご迷惑をお掛けしたことを深く反省しております。

最後となりますが、宇部青年会議所でのたくさんの思い出は、私の素晴らしい財産となりました。感謝しかございません。本当に長い間ありがとうございました。

まずは、総合企画委員会の委員長をさせていただいた2016年。その年は、宇部が16年ぶりに山口大会(会員大会)を主管する事となり、ブロックへ実行委員長として出向しました。それまで、メンバーとして出向した事はありましたが、ブロックの事はほとんど分からない状態でした。式典・懇親会・公益目的事業と三本柱の事業を一日で行うという、今考えても恐ろしい内容です。2015年の初委員長の時は失敗だらけの年となってしまうので、その反省を活かし、「何としても、この山口大会を成功させるんだ!!」永堀理事長に恥をかかせてはいけません!!という想いで取り組みました。が、私の力不足が露呈し、なかなか前に進みません。そんな時、本当に寝る間も惜しみ協力してくれたのが委員会のメンバーでした。毎日毎日小委員会を重ね、日付が変わっても準備をしてくれました。それはいつしか委員会の垣根を越えて、

JC 経歴

- 2011年 指導力開発委員会
- 2012年 経営開発委員会 委員
(出向) 山口ブロック協議会 未来に輝く経済人育成委員会
- 2013年 教育開発委員会 委員
- 2014年 社会開発委員会 委員
- 2015年 社会開発委員会 委員
- 2016年 会員拡大広報委員会 委員
- 2017年 経営開発委員会 委員
- 2018年 会員拡大交流委員会 委員
- 2019年 休会
- 2020年 社会開発委員会 委員
- 2021年 総務渉外広報委員会 委員



櫻井 知徳



2009年7月に宇部青年会議所に入会をさせていただき、12年と5ヵ月在籍をさせていただきました。入会当初は

卒会まで長いなあとか考えていませんでしたが、今振り返りますと、あつという間に卒会の時を迎えるように思います。

これまで本当に多くの皆様に支えていただきました。宇部青年会議所の先輩方、入会同期のメンバー、同じ委員会一年間苦楽を共にしたメンバー、地区・ブロックでの一緒に活動したメンバー。今の自分があるのは皆様のお蔭であると、本当に感謝の気持ちしかありません。ありがとうございます。

その年その年で様々な事を経験させていただき思い出に残る年ばかりですが、その中でも印象深い年があります。

まずは、総合企画委員会の委員長をさせていただいた2016年。その年は、宇部が16年ぶりに山口大会(会員大会)を主管する事となり、ブロックへ実行委員長として出向しました。それまで、メンバーとして出向した事はありましたが、ブロックの事はほとんど分からない状態でした。式典・懇親会・公益目的事業と三本柱の事業を一日で行うという、今考えても恐ろしい内容です。2015年の初委員長の時は失敗だらけの年となってしまうので、その反省を活かし、「何としても、この山口大会を成功させるんだ!!」永堀理事長に恥をかかせてはいけません!!という想いで取り組みました。が、私の力不足が露呈し、なかなか前に進みません。そんな時、本当に寝る間も惜しみ協力してくれたのが委員会のメンバーでした。毎日毎日小委員会を重ね、日付が変わっても準備をしてくれました。それはいつしか委員会の垣根を越えて、



宇部のメンバー全員が手伝ってくれて、今まで最高の大会とすることが出来ました。自分一人では何も出来なかつたのですが、本当に多くの方に協力してもらったからこそ出来たと思える一年でしたし、私の中でJCの考え方が変わった一年となりました。

そして、理事長をさせていただいた2020年。宇部青年会議所創立65周年という大変貴重な年だったので、新型コロナウィルス感染症という誰もが経験をした事がない未知のウィルスの流行によりJCの活動も自粛ばかりの一年となってしまいました。何をしたいのか。何をしたいのか。何をしたいのか。本当に何も分からず、自分もマイナスな事しか考えられない状態でした。そんな中、各委員長が何か一つでも事業をやらうと声を上げてくれた時は、嬉しさがありませんでした。そして、特別記念事業という形で事業を行う事が出来ました。

私のJC生活は誰かに支えてもらったからこそであると思っています。何か見返りがある

JC 経歴

- 2009年 指導力開発委員会
- 2010年 社会開発委員会 委員
(出向) 山口ブロック協議会 副会長幹事
- 2011年 総務渉外委員会 委員
- 2012年 経営開発委員会 副委員長
(出向) 中国地区協議会 国際交流委員会 運営幹事
- 2013年 明日の宇部を考える委員会 副委員長
(出向) 山口ブロック協議会 総務広報渉外委員会
- 2014年 総務渉外委員会 委員
- 2015年 社会開発委員会 委員長
- 2016年 総合企画委員会 委員長
(出向) 山口ブロック協議会 山口大会実行委員長
- 2017年 専務理事
- 2018年 教育開発委員会 委員
- 2019年 指導力開発委員会 委員長
- 2020年 理事長
- 2021年 直前理事長
(出向) 山口ブロック協議会 監査担当役員

る訳でもないのに、同じ会のメンバーというだけで、手を差し伸べる。「誰かの為に生きてこそ人生には価値がある。」と言う言葉があります。それができる団体はJCだけだと思えます。今まで、数多くの先輩方に本当に良くしていただきました。後輩のみんなに同じような事が出来たかは分かりませんが、この素晴らしい活動・運動をこれからも続けていって下さい。

現役の皆さん、楽しんでJCやって下さいね!!

今まで本当にお世話になりました。ありがとうございます。ONE LOVE



ば開催される事業も中止となり悔しい思いをしました。2021年は岸委員長率いる社会開発員会へと配属させて頂きました。ここで振

る間に一刻と卒会へと近づいております。卒会が近くなると全国大会、山口大会の話その他諸々、卒会に関する事が耳に入り、もうすぐ3月としての生活も終わるのかと嬉しいのか寂しいのか複雑な感慨を持ちます。

入会に至るまでの経緯として何度も先輩諸兄の方々から入会を勧めて頂き20代の時にオプザーバーとして何度か参加させて頂きました。その時の印象は自分なんかが入れる団体ではないなど敷居の高さを感じました。それから時は流れ入会期限ギリギリの2019年9月によりやく重い腰をあげ、妻の最終決意をもらい入会させて頂きました。

入会後まず櫻井直前理事長を委員長とする指導力開発委員会所属となり周りは若いメンバーばかり「一人だけ、おじさんいますよ。」という違和感しかない状況に自分でも思わず笑いたくなる様な環境でJC生活はスタートしました。2020年は西村崇先輩を委員長とする総合企画委員会へと所属させて頂きました。この年の年初から続く武漢ウィルス感染症拡大により本来であれば

り返り印象に残ることを書くかと思つたのですが今日まで印象に残ることばかりで出来事を書き始めると私の文章能力では、ここで書ききれそうに無いので、まとめに入ります。

「生まれ育ったこの街のため」とざっくりとした言葉で審査委員会の皆様の前で話し「明るい豊かな社会の実現」をするために何か成せたのだろうかと思いを抱えたまま、今を迎えております。ですが私はとても大切な物をこの会に入会する事で得ました。それは「仲間」です。この会に入会しなければ話すことも食事することも無かった方々と知り合え手を携え同じ時間、同じ目標を共有する。入会に至るまでに誘ってくださった先輩方が口を揃えて仰っていた「一生の友達ができるよ。」という言葉を実感しております。

次年度以降は卒会者という立場にはなりません。現役メンバーには1人でも多くの仲間を増やしていただければと願っています。

結びとなりますがJCを続けるにあたりご理解ご助力いただいた全ての方へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

JC 経歴

- 2019年 指導力開発委員会
- 2020年 総合企画委員会 委員
(出向) 山口ブロック協議会 未だ見ぬリーダー育成委員会
- 2021年 社会開発委員会 委員
(出向) 山口ブロック協議会 総務広報委員会 副委員長

2021 卒会者

田中 裕一郎



2019年9月に入会させて頂き、早いもので3年の歳月が経とうとしています。今こうしてJCニュースを書いてい

り返り印象に残ることを書くかと思つたのですが今日まで印象に残ることばかりで出来事を書き始めると私の文章能力では、ここで書ききれそうに無いので、まとめに入ります。

「生まれ育ったこの街のため」とざっくりとした言葉で審査委員会の皆様の前で話し「明るい豊かな社会の実現」をするために何か成せたのだろうかと思いを抱えたまま、今を迎えております。ですが私はとても大切な物をこの会に入会する事で得ました。それは「仲間」です。この会に入会しなければ話すことも食事することも無かった方々と知り合え手を携え同じ時間、同じ目標を共有する。入会に至るまでに誘ってくださった先輩方が口を揃えて仰っていた「一生の友達ができるよ。」という言葉を実感しております。

次年度以降は卒会者という立場にはなりません。現役メンバーには1人でも多くの仲間を増やしていただければと願っています。

結びとなりますがJCを続けるにあたりご理解ご助力いただいた全ての方へ感謝申し上げます。ありがとうございました。



ご卒会
おめでとうございます



2021年度 事業を終えて

指導力開発委員会

清水 真吾



私は2020年11月に宇部青年会議所に入会し、2021年度指導力開発委員会のメンバーとして多くの体験をさせて

いただきました。

6月に実施された勉強会では、花村委員長から「JICの目的や意義」について、中村副委員長から「ロバート議事法と事業計画書の作り方」について学び、JICの基礎の部分を学習することが出来ました。

勉強会のメインである模擬理事会では4つのグループに分かれ、各グループで事業計画を考えました。模擬の理事会とは言え、メンバーはみな真剣で何度も小委員会を開催し、意見交換しながら、各グループ



ら、各グループ一丸となり事業計画書を作りました。この勉強会では1つの事業計画を作る難しさと共に、事業計画書が審議を通過した時の満足感を味わうことが出来ました。これから実



際に事業を進めるにあたって自信を持つことができるともいい経験になりました。

8月に行われた新入会員研修会では、橋本先輩、新山先輩による講義を拝聴させていただきました。優しくあるために強く

なる。この言葉はJIC生活だけでなくこれからの人生に活かしていける、心に残る言葉になりました。

9月に実施予定でしたLD道場は、新型コロナウイルスのデルタ株感染拡大防止集中対策による影響で中止となりましたが、予定していたスポーツテストのため事前に下見や時間計測のシミュレーションは繰り返し実施しており、事業を行う上でいろいろな状況を見極める大切さや、様々な状況に対応できる準備の必要性も改めて学ぶことが出来ました。

そして最後に「Learn From Sports Coaching」のタイトルで指導力開発委員会11月度担当例会を行いました。動画撮影のため長門市油谷まで行き、メンバー全員ウエットスーツに着替え、朝6時から日本海に入りサーフィン動画を撮影をしました。私自身、波に乗ることはできなかったですが、初めてのサーフィンはとても貴重な経験になりました。担当例会本番前には毎日夜遅くまで小委員会を実施し、多くの時間を指導力メンバーと過ごしました。仲間と共に過ごした時間は私にとって宝物です。

この1年間、指導力開発委員会のメンバーとして学んだ事はJIC活動以外にも役立つことが多いであろうと思います。2年目以降では、自分も後に入会されてくるメンバーに教えることも出てきますが、その時にはJIC

で自分が学んだことをしっかりと伝えていきたいです。そして宇部青年会議所の魅力を広める事で会員拡大にも力をいれ、これからの宇部青年会議所を見据えた活動も行っていきたいと思います。そのためにも今後のJIC活動を積極的に参加していきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

教育開発委員会

西俣 颯斗



私は昨年の9月より宇部青年会議所に入会し、気付けば一年が経過しました。何もわからなかった昨年よりも、

今年自分自身とても成長させていたいただき、改めて宇部青年会議所に入会して良かったと思う一年でした。

今年教育開発委員会のメンバーの一員として、真宅委員長、樫木副委員長のもと、多くの先輩方と同期とともに、小学生を対象としたプログラミングを学んでもらう教育開発事業「UBE CRAFT」ゲームで作ろうUBE CITY」や、「JIC

ヤングスポーツ大会」などの事業を経験させていただきました。

特に「UBE CRAFT」ゲームで作ろうUBE CITY」では、宇部青年会議所が始

まって以来、対外事業では初のWEB事業を行い、山口プロック褒賞審査会にてグランプリを受賞出来たことは、一生忘れ



る事のない思い出となりました。

事業を行うにあたり、企画の段階からメンバー一丸となって皆さんの話し合いを行って来ました。どうしたら子供たちに現代の学びと経験を持って帰ってもらえるか、どうしたら直接会えない環境の中でうまくコミュニケーションがとれるか、試行錯誤の日々でした。事業当日、オンライン上でしかやりとりが出来ない中、最初はそれぞれが自由に行動していた小学生が次第に協力し合い、チャットでコミュニケーションを取りながら一つの課題を解決していく姿を見て、胸が熱くなりました。

褒賞審査会でグランプリを受賞出来たこと、また、子どもたちが喜ぶ顔を見られたことなど、他では味わえない達成感を味わえたことは、宇部青年会議所に入会して本当に良かったと思えた瞬間でした。またJICヤングスポーツ大会では、コロナ

禍ということもあり、開催できた団体と残念ながら開催出来なかった団体がありました。開催できた競技では、日頃の練習の成果を発揮する小学生、それを応援する保護者の方を見て、一つの大会を運営することの価値を改めて実感しました。

私は、今年の教育開発委員会のメンバーになれて本当に良かったと思っています。今年、教育開発委員会で経験し学ばせていただいたことを、これからの青年会議所活動に活かしていきたいと思っています。

社会開発委員会

田中 裕一郎



2021年度社会開発委員会は岸委員長、藤井副委員長の下、会員拡大、6月度及び10月担当例会と家族会、社会開発事業、忘年会の職務分掌をいただきました。

2020年から続く新型コロナウイルス感染症拡大により4月に行われる予定であった家族会は中止となりました。今年最初の委員会事業という事もあり、メンバーが一丸となって考え準備してきた事業が中止となったのは非常に残念に思いましたが、事業を通じて私にとっても多くの思い出となる良い経験をすることができました。6月度担当例会では学校法人香川学園 宇部フロンティア大学短期大学 学保育学科 教授、伊藤教授をお招きし「2から始める社会開発〜地域財産に彩りを〜」と題し既存の地域資源を活かし、この街の資源の活用方法、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みなどについて講演いただきました。知らなかった地域資源があることに気付かされるとも有意義な例会でした。8月から10月末日まで実施した社会開発事業では市内でインターネット環境やS



NS媒体を持たない企業や店舗様を対象として、ホームページに掲載する「コレミテUBE」の事業が始まり実際に店舗へ足を運び取材、お話を聞くなかで新型コロナウイルス感染症に伴う、経済打撃を改めて

実感しました。何度か足を運び店舗様から「ありがとうございます。ありがとうございます。」とお声をいただき、微力ではございますが地域の一助となれたと実感できる事業でした。ホームページ掲載に伴う取材、動画撮影等にご協力いただきました。方々へ、この場を借りて御礼申し上げます。

10月度担当例会では「社会開発委員会」について例会を行いました。過去に行われた社会開発事業、歴代委員長へのインタビュー動画を紹介し社会開発事業への取り組み方、そして理事やフォロアーメンバーのそれぞれの立ち位置での考え方や、行動、責任についてメンバー全員が考え、会員の皆様にも考えていただく良い機会になったと思います。

2021年度の社会開発委員会では委員会メンバー全員で様々な問題を抱えながら今までにないメイン事業を行い、そして色々と考え学ばせて頂きました。今年一年ご協力いただいた皆様に改めて御



礼申し上げるとともに、家族の為、会社の為、仲間の為、地域の為にこれからは邁進していきたいと思えます。

総務渉外広報委員会 五十崎 良



今年度、私達「総務渉外広報委員会」では、好野委員長、山下副委員長のものと、新年懇親会の運営、広報活動、JCニュースの発刊、ラッキーBOXの運営、月例会の運営、卒会式の運営など、宇部青年会議所の屋台骨ともいえる委員会として事業を行ってまいりました。

新型コロナウイルスの感染が拡がる中、新年懇親会では委員会メンバー全員が力を合わせて準備を進めて参りました。しかし、開催当日に宇部市内で発生した大規模クラスターの影響を鑑み、直前で中止の判断を下すことになりました。全員で協力して対応をすることで、非常に残念な中ではありましたが「ただ中止にするのではなく、できることを考えてやり抜こう」という姿勢を共有することができました。

その後、感染拡大が治らない中、月例会の運営も臨機応変な対応が求められ、オンラインでの例会となることもありました。オンラインであつ



ても、厳粛な例会となるよう事前準備をしっかりと行い、良い意味で何事も無い例会となるよう緊張感を持って運営して参りました。5月度担当例会では、日本航空山口支店の小林支店長をお招きし、講師例会を行いました。JALフィロソフィーに関する講演をして頂き、熱意を持って取り組むだけではなく、正しい考え方で取り組むことが大切だということを学び、非常に有意義な時間となりました。9月度担当例会では「正しく学ぶハラスメント 職場への彩りを」と題しまして、ハラスメントに関して行いました。ハラスメントが会社及び個人に影響、多様な個性を持つ人々が共存していくために一人一人が互いの個性を尊重していくことの大切さを改めて学ぶことができました。

また、卒会式の運営が残っております。盛大に卒会者を送り出せるよう準備して参りますので、宜しくお祈り致します。

結びになりますが、先輩諸兄の皆様、支えて頂いた関係者の皆様、委員会のメンバーに感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。

2021年度 出向を終えて

山口ブロック協議会

総務広報委員会

委員長 松本 誠矢



この度山口ブロック協議会の総務広報委員会へ出向させていただきました。ありがとうございました。松本と申します。

今年度、総務広報委員会といたしまして、JCISEセミナーと青年会議所運動・活動の検証と発信をする褒賞事業という主に二つの事業を開催させていただきました。

JCISEセミナーでは、山口ブロックの会員に向けて、「地域社会の課題と向き合う」持続可能な解決策とは」と題し、次年度中国地区会長予定者でもあり、現在、鳥取青年会議所の理事長、澤田健吾様を講師として迎え、二部構成のセミナーを行いました。前半

では「自己マスター」[JCI Impact]を行い、地域の課題を見つけ、解決策を探るセミナーを行い、後半では、「自己マスターについて」というセミナーを開催しました。「自己マスター」では、自分の目標に対して、現在



の自分を見つめ直し、モチベーションを保ちつつ目標達成へ向かう方法などを学ぶ場を提供しました。

また、褒賞事業では、事業部門とニューノーマル部門の二部門で行い、過去一番のエントリー数を獲得することを目標とし励みました。結果、事業部門へ20事業、ニューノーマル部門へ7



とことができました。また、県内13LOMの事業内容の共有・発信と検証を行う場を提供するために、褒賞用のホームページを設立し、褒賞事業の透明化と各LOMがどのような事業を行っているのかを情報共有して参りました。ブロックの委員長として非常多くの経験を積むことができ、大変勉強になった一年間となりました。今後この経験を宇部青年会議所へ活かしていきたいと思っております。

組織戦略拡大委員会

高橋 朋宏



2021年度山口ブロック協議会の組織戦略拡大委員会に出向させていただきました。高橋朋宏です。当委員会では、

市民の中に私たちの運動に対する共感の輪を広げ、さらに社会活動の意義とそうした運動を展開する組織に所属し、運動を展開することの素晴らしさをメンバーに再認識してもらうことを目的として、作家の北康利先生を講師とし「変革期のリーダー達」というテーマで講演会を6月19日に開催致しました。当初、

講演場所を山口県政資料館とオンラインライブ配信でのハイブリッド形式での開催を計画しておりましたが、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加等の影響で、急遽完全オンラインライブ配信での講演会となりました。講演会の中で北康利講師には吉田茂元首相や経営の神様松下幸之助氏、幕末の英雄西郷隆盛など、様々な偉人の話を交えながら、変革期のリーダーに必要な要素、考え方を分かりやすくお話しいただきました。参加された方々にはコロナ禍において如何にリーダーが重要な役割であり、前例踏襲ではなく革新的な考え方を常に求め続ける重要性に気付いていただけたのではないかと思います。

また、当委員会では組織拡大への取り組みとして山口ブロックの各LOMとの連絡会を定期的開催致しました。こちらもコロナ禍の影響により全てオンライン形式となりましたが、対面式でなくとも円滑に開催することが出来ました。



山口ブロック協議会へ出向を終えて、コロナ禍においても社会を豊かにするためにしっかりと目的を持って実行へ移すことの重要性を実感致しました。一年間、ありがとうございました。

SDGs推進委員会

金子 翔



SDGs推進委員会の金子です。今回、初めての出向先「SDGs推進委員会」に高谷、金子の二名で、出向させて

いただきました。二人ともが初めての出向経験ということもあり、SDGsという言葉は聞いたことはありましたが、広めるために何をやっていくのかのドキドキと、新しいことを行うワクワク感が入り混じったスタートでした。

この度は周南青年会議所を中心とするメンバーでSDGsの事業構築を行いました。開始直後から、コロナ禍が加速し、外出規制や行政指示も出るようになり、SDGs推進委員会としても事業計画をやむを得なく変更という形になりました。当初は、対面の事業を行う予定でしたので、事業の打ち合わせの為、周南市へお伺いする予定でした。

しかし、すべてオンラインに切り替わり、初めて会う方の挨拶がパソコンの画面越しになるなど今までに経験のない事業の進め方でした。出向先のメンバーともオンライン越しに打ち合わせを行ったことも、今となっては良い経験をさせていただけたと思っております。特に、グループ内での司会進行、ファシリテーターという職務をお預かり致しましたが、進めることの難しさ、人から意見を引き出す難しさなど、学びを得ることが大いにありました。

最後になりますが、出席者、関係者皆様のお陰様で、事業の方も大いに盛り上がり、大成功を取ることが出来ました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。ありがとうございました。



2021年度 活動を終えて

野球部会

マネージャー 山下雄太



本年度、野球部会マネージャーの職をお預かりしました山下です。

今年、好野監督、岸キャプテン、藤井マネージャー、そして私の4名での運営をさせていただきました。好野監督におかれましては2年連続の監督となり、また岸キャプテンは本年度が卒会年といったこともあり、去年の球技大会での結果を上回ることを願っておりましたが、残念ながら今年の結果としては球技大会での初戦敗退という結果となってしまいました。このような結果となってしまうのはコロナ禍によって練習の回数が少なかったということもありますが、マネージャーとして練習にメンバーを集めきれなかった問題があったこと、運営に関して貴重な意見をいただいていたにも関わらず生かし切れていなかった点などがあり、私自身が反省すべき点が多く見つかる1年となってしまいました。しかし、これらの反省すべき点も多くありました。その分、学ぶことができたことも多くあり、私自身についてはと注釈が付きますが身になる貴重な経験をさせていただきました。

次年度はまた新しい首脳陣が始まりますが、より良い経験を積んでいただけることを祈念しております。

1年間、多くの方に大変お世話になりました。ありがとうございました。

サッカー部会

監督 今橋智之



本年度、サッカー部会監督を務めさせていただいております。今橋智之と申します。本年はキャプテンに中川五郎君、マネージャーに田中正寛君という体制で部会をスタートしましたが、残念ながら昨年を引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で思うような活動ができませんでした。

サッカー部会では例年フットサルを行うことが主な練習となっておりますが、来年はコロナ禍でも活動ができるような練習方法を企画して積極的に活動して、部会を盛り上げていきたいと思っております。

そして、私事ですが来年がラストイヤーなので全国大会を目指したいと思っております。1年間ありがとうございました。

じやがいも会

幹事 西俣颯斗



本年度、じやがいも会幹事を務めさせていただきました。西俣颯斗です。塔野会長、柴崎副会長の下、昨年も幹事を務められた石橋さんと共に幹事をさせていただきました。

私自身ゴルフの経験はありましたが、幹事という立場初めての経験で、ご迷惑を掛けてしまうのではないかと不安を感じながらのスタートでした。しかし、塔野会長を始めとしたOBの諸先輩方や事務局の石川さん、幹事経験者の石橋さん、現役メンバーの皆様など多くの方に支えていただき無事にじやがいも会の運営を行うことが出来ました。改めて皆様に感謝申し上げます。

この1年間で印象に残っていることは、新型コロナウイルスの影響を考えたがらの運営です。新型コロナウイルスの影響によりじやがいも会を開催するかどうか判断が難しい部分もありましたが、塔野会長、柴崎副会長の尽力添えを頂きながら感染対策に気を付け、全5回のじやがいも会を、感染者を出すことなく無事に開催する事が出来た事が何よりの思い出です。感染対策にご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

最後になりますが、このじやがいも会がより一層賑わい、そして多くの方に気軽に楽しく参加していただける会である事を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。1年間ありがとうございました。



新入会員紹介



清水真吾

メットライフ生命株式会社
コンサルタント
昭和59年5月1日生



龍口 堅太

合同会社 Lighthouse
代表社員
昭和58年8月5日生



後田圭一郎

ゴルフ工房 LACK
代表
昭和58年4月13日生



本田博照

フームセブン株式会社
統括部長
昭和62年6月19日生



藤井 誠

株式会社イム
社員
昭和60年8月6日生



西野晋司

Lounge 夜桜
代表
昭和62年10月3日生

2022年度 理事長候補者挨拶

第67代理事長候補者

二木 隆行



本年6月14日の臨時総会にて、一般社団法人宇部青年会議所 第67代理事長候補者としてご承認をいただきました。二木隆行と申します。この歴史と伝統のある宇部青年会議所の理事長を務めさせていただくにあたり、大変身の引き締まる思いでございます。来年一年間どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は2014年に宇部青年会議所に入会させていただき、今年で8年目を迎えました。

在籍年数は長くありませんが、これまで多くの諸先輩方やメンバー、県内各地会員会議所、そして事業にご協力いただきました方々に、たくさんの学びとかけがえのない経験をさせていただきました。今まで支えてくださった先輩方には遠く及びませんが、これまで培ってきた学びと経験を惜しむことなく発揮していく

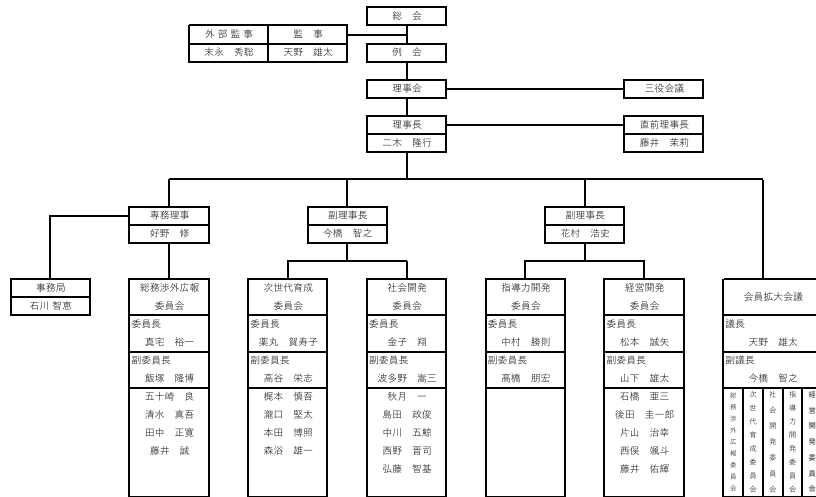
所存です。

2022年度は「Create The Future」未来にタネをまこうをスローガンに掲げさせていただきました。新型コロナウイルス感染症の長期化の影響は社会全体に深刻な打撃を与え、我々の生活に甚大な影響が生じています。ですが、我々はどんな時代であっても歩みを止めることなく運動を続け、失敗を恐れず行動していかなくてはなりません。そのためにも、これからも地域のオピニオンリーダーとして運動に取り組み、次世代を担う人材を育成していく事が重要です。故郷のために活躍されてきた諸先輩方の高い志を引き継ぎ、お互いが助けあい寄り添う事で友情を育み、将来かけがえのない同志と共に宇部市の発展に全力で取り組んで参ります。

2022年度一般社団法人宇部青年会議所の活動に、これまでと変わらぬご理解とご協力、そしてご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。来年一年間どうぞよろしくお願ひ致します。



一般社団法人宇部青年会議所 2022年度 組織図 (案)



編集後記

総務渉外広報委員会 森浴 雄一



今年には藤井実莉理事長が掲げられた「錦上添花」が助け合いで生まれる新たな彩りのスローガンのもと、宇部青年会議所の2021年がスタートしました。1月、宇部青年会議所の初の事業として昨年からの準備を進めておりました新年懇親会は開催日当日に宇部市内で大規模なクラスター感染が発生し、急遽中止にせざるをえなくなるなど、昨年から続くコロナ禍という状況の中でどのような方法で行えば事業、例会、委員会が開催できるかを改めて考えさせられるスタートとなりました。本年度も感染者が増えた6月、9月度の例会は昨年と同様にオンラインを利用したWEB例会となり、山口ブロック協議会の事業もWEBで開催されました。また、6月に宇部市内の小中学生に向けた教育開発事業として開催されました、眞宅委員長、榎木副委員長率いる教育開発委員会の事業「UBE CRAFT」ゲームを作ろうUBE CITYは当初、集合形態での開催予定でしたが、これも感染者急増という状況から急遽オンラインでの開催となるなど、今年は昨年に比べ事業のリモート化が一段と進んだ一年となりました。またこの教育開発委員会の事業は山口県内で行われた優秀な事業を讃える褒賞アワードで、ニューノーマル部門で見事グランプリを獲得することとなりました。教育開発委員会の皆様おめでとうございます。

最後に、2021年度宇部青年会議所活動にご協力頂きました関係者の皆様、先輩諸兄、またJCニュース発刊にあたり、ご多用の中、寄稿頂きました皆様に感謝を申し上げます。ご協力ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願ひ致します。